

令和4年度 江戸川区立第二葛西小学校 学校関係者評価 中間評価用報告書 【案】

学校教育目標	じょうぶな子 思いやりのある子 考える子 やりぬく子 ＊重点:自ら進んで取り組む	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	保護者・地域の理解と協力を得て、子どもたちに確かな力を育み、信頼と誇りをもてる学校 自分から進んで確かな学力、豊かな心、健やかな身体を身に付け高めよう取り組む子ども より質の高い授業、教育活動をめざし、子どもに寄り添い、子どもの喜びや悲しみを自分の喜びや悲しみにできる教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>「感染防止に配慮している」という保護者が93%であったように、新型コロナウイルス感染症への対応を適切に進めながら、学校運営、教育活動ができる限り円滑に進めることができた。また、学校の様子について、公開やホームページ、たよりなどを通して積極的に発信し、保護者、地域の理解を得ることができた。 <課題>タブレット端末の活用が進みつつあるものの学年・学級間の差がみられており、系統的な指導を確立していく必要がある。配慮を要する指導や不登校傾向の児童への対応について、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携した対応が必要である。時間外勤務が月55時間を超える教員が20%程度おり、学校組織としてのさらなる業務改善が求められる。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策	
					取組	成果	成果と課題	評価		コメント
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・改善・充実 ＊7つの主な事業(確かな学力向上推進プランの実施・改善、小学校における教科担任制の導入、学力向上のための補習の充実 他)	・週1回の全校百マス計算の実施 ・学校と民間による放課後補習の実施 ・5, 6年社会、理科での教科担任制や各学年での交換授業の実施 ・低学年からの学習習慣の確立と基礎学力の系統的な育成をめざした学校独自のプログラムの作成	・学力を高めようとしているという児童90%以上 ・学習によく取り組んでいるという保護者80%以上 ・授業の工夫がなされているという教員90%以上	B	B	・学力を高めようとしているという児童は86%、授業の工夫がなされているという88% ・全校百マス計算、放課後補習、教科担任制及び交換授業を順調に実施している。 ・全国及び都の学力調査の結果をまとめて整理し、ホームページ等に公開した。	B	・日々の授業だけでなく、さまざまな取組を進めていただいている。 ・家庭へのはたらきかけ、家庭での取組の充実も図るべきではないか。 ・テストの結果に一喜一憂せず、取組を進めてほしい。	・低学年からの学習習慣の確立と基礎学力の系統的な育成をめざした学校独自のプログラムの作成を進める。 ・学力の二極化がみられており、個別の支援をさらに進めたい。
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・毎週30分間の全校運動遊び及び元気アップタイムの実施 ・学校隣接の公園を活用した遊び場の拡充 ・アスリートによる授業やバラスポーツ体験の実施	・体力を高めようとしているという児童90%以上 ・子どもはよく身体を動かしているという保護者60%以上 ・体力向上に向けた取組が推進されているという教員90%以上	B	B	・体力を高めようとしているという児童は83%、体力向上に向けた取組が推進されているという教員は81% ・元気アップタイム、公園の活用、バラスポーツ体験などを順調に進めている。	B	・バラスポーツ体験を多くの学年で体験していることはとてもよい。 ・体力向上についても家庭の取組が大切である。学校だけでなく、広く機会を充実するなどしたい。	・体力の現状や向上の取組などについての家庭等への発信を強化する。 ・子どもたちの取組につながるようなきっかけづくりを進める。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・学校図書館スーパーバイザーによる指導を取り入れた「調べる学習」の実施 ・朝読書及び毎週30分間の読書活動の実施 ・地域図書館との連携充実	・本をよく読むという児童80%以上 ・子どもは本に親しんでいるという保護者60%以上	B	C	・本をよく読むという児童は64% ・朝読書、読み聞かせなどを進めている。 ・地域図書館のサテライト運営が始まり、利用している児童もみられている。	B	・地域図書館のサテライトがきっかけの一つになることよい。 ・タブレットに注目していくが、本の大切さも意識してほしい。	・年度後半は「調べる学習」を重点的に進める。 ・児童の地域図書館との連携の在り方を検討する。
	デジタル技術の活用の推進	・タブレット端末を活用した授業の充実 ・校務の効率化の推進	・タブレット端末を活用した指導事例の蓄積及び整理 ・タブレット活用ルールに基づく情報モラルの育成 ・校務の一層の効率化、ペーパーレス化の推進	・ICTを活用した授業が行われているという教員90%以上 ・タブレット端末の活用が進められているという保護者80%以上 ・紙媒体での資料、配付物等を前年度比で30%以上削減	B	B	・ICTを活用した授業が行われているという教員は84% ・学校だより等のデータ配信によるペーパーレス化を進めている。	B	・これからの時代を生きる子どもたちには必要な学習だと考える。 ・教員の負担軽減につながっていくようになることよい。	・活用事例の集約、活用ルールの改善に向けた検討を進める。 ・ペーパーレス化をより一層推進する。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・おおぞら学級での指導の充実 ・巡回指導や特別支援教室専門員の活用、エンカレッジルームの活用、日本語指導員や日本語教室との連携 ・副籍交流及び通常の学級と特別支援学級の交流の充実	・配慮を要する児童への支援が適切だという教員90%以上	B	B	・配慮を要する児童の支援が適切だという教員は88% ・特別支援学級の児童が通常の学級で指導を受けるなどの試みを進めている。 ・児童の実態に応じて、巡回指導や日本語指導などを進めている。	B	・さまざまな児童の対応を教員だけで行うのはなかなか大変ではないか。 ・さまざまな配慮が必要な子どもたちが増えている。よりきめ細やかな支援の仕組みが必要だと感じる。	・不応児童の実態や改善に向けた検討会を充実させるとともに、次年度に向けた支援体制を整備する。 ・感染終息後を見据えた交流、協働のあり方について検討を進める。
	子どもたちの健全育成	・子どもたちの健全育成に向けた取組	・QUTテストや各種アンケートによる児童の実態把握とそれに基づく指導の推進 ・友だちのよさを見つける取組の推進 ・低学年からの基本的な生活習慣の系統的な育成をめざした学校独自のプログラムの作成 ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携強化	・学校が楽しいという児童90%以上 ・進んであいさつをしているという児童85%以上 ・子どもは約束やきまりを守って生活しているという保護者80%以上 ・子どもはあいさつや返事をしているという保護者90%以上	B	B	・学校が楽しいという児童85%、進んであいさつをしているという児童85% ・スクールソーシャルワーカーとの連携を密にし、事例に応じてカウンセラー、ソーシャルワーカーなどと連携しながら対応を進めている。	B	・子どもたちが、学校が楽しい、この学校で学んでよかったと感じることがすべての基本である。 ・街の中であいさつをしてくれる子どもたちも多くなる。そうした子どもたちのよさを伸ばしてほしい。	・不登校児童の実態把握や改善に向けた検討会を充実させるとともに、次年度に向けた支援体制を整備する。 ・スクールソーシャルワーカーとの連携事例の評価、検証を行い、次年度につなげる。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	豊かな心の育成	・特別活動や道徳を中心とした豊かな心の育成の推進	・委員会活動や係・当番活動、異学年交流などの再開・充実 ・感染防止に配慮した周年行事、音楽会の実施	・学校が楽しいという児童90%以上 ・当番係をしっかりとやっているという児童90%以上 ・子どもの友人関係は良好であるという保護者90%以上	B	B	・学校が楽しいという児童85%、当番係をしっかりとやっているという児童91%	A	・子どもたちが素直に、元気に育っている様子を感じる。	・自ら進んで行った取組を紹介するなどしながら意欲の向上を図る。
	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・学校評価の一環として行う児童、保護者、地域、教職員へのアンケート調査の実施 ・運動会等の行事への保護者アンケートの実施と公開	・学校のホームページの毎日の更新 ・学校の様子がわかりやすく伝えられているという保護者95%以上	A	A	・ホームページの毎日の更新を継続中である。 ・運動会の保護者アンケートをホームページで公開している。	A	・学校の様子、子どもたちの姿をよく伝えていただいている。 ・たくさんの保護者がいて大変だが、引き続き発信に努めてほしい。	・学校評価を踏まえ、次年度の学校経営方針、教育課程の編成等を進める。
	安心・安全な学校づくりの推進	自分の身体、命を自分で守る力の育成	・新型コロナウイルスへの感染防止の徹底 ・さまざまな災害を想定した訓練の実施 ・警察等と連携したセーフティ教室、薬物乱用防止教室などの推進	・健康や安全に気を付けて生活しているという児童90%以上 ・新型コロナウイルス感染症に配慮した教育活動、学校運営が進められているという保護者90%以上	A	A	・健康や安全に気を付けているという児童92% ・計画に沿いながら、訓練などを実施している。	A	・コロナの感染防止によく取り組んでいただいている。 ・避難所開設等災害への準備も進めておきたい。	・引き続き感染防止策を適切に進めていく。 ・防災、防犯の取組も計画を踏まえ推進していく。
特色ある教育の展開	開校90周年記念事業の推進	学校や地域を愛する心の育成の推進	・記念誌作成、記念集会・記念式典の実施、校内環境の整備・充実 ・PTAやおやじの会によるイベントの再開・充実	・行事が適切に進められているという保護者95%以上	A	A	・周年に向けた取組が順調に進んでいる。 ・7月に行われたおやじの会のイベントに多くの親子が参加した。	A	・周年に向けた取組が順調に進んでいる。子どもたちの心に残るものにしていきたい。	・子どもたちが学校への愛着を高められるよう取組を進める。 ・できる限り効率的に実施したい。
	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・月2回の定時退勤日の設定 ・会議等の効率化、組織改革の一層の推進	・全教職員の月残業時間55時間以下	B	B	・全体としては昨年度より残業時間が減ってきているが、月によっては多い状況がある。	B	・地域の方も得ながら、働き方改革が進んでいくことよい。	・繁忙期の対策などを検討し、取組を進めたい。
特色ある教育の展開	教職員の資質・能力の向上	教員研修の充実	・思考力の向上をめざした研究の推進 ・若手教員の組織的な育成	・全教員の年2回の授業公開の実施 ・資質・能力の向上に努めているという教員80%以上	B	B	・資質・能力の向上に努めているという教員97%	B	・若い教員の育成などに努めてほしい。	・次年度に向け、校内研究、若手研修の改善などを検討していく。